

コラム 相談室の窓から

平成30年2月号

今月のふれあいルームの体験活動は、バレンタインデー用のチョコレート作りです。2回にわたって、生チョコレートとドライフルーツのチョコバーにチャレンジしてみます。教室中が、チョコレートとココアパウダーでたいへんなことになりそうです。できあがったチョコは、かわいくラッピングしてお持ち帰りします。

3月は当然ホワイトデー用のキャンディー作り。今度はベタベタになりそうですね。掃除を丁寧にしなくっちゃ。



我が子がスムーズに進学進級できるためには？

今年度も終わりが見えてきました。一日をととても長く感じた日もあったかもしれませんが、「2月は逃げ 3月は去る」とよく言います。これからの日々はあっという間に過ぎていくことでしょう。

春は、だれでも新しい息吹を感じ、心がリフレッシュする季節です。しかし、一方で新しい出会いや環境に、期待よりも不安のほうが大きい場合もあります。

今の学級や先生、友達になじんで、すてきな人間関係が築けていたのなら、「今度のクラスではうまくいくだろうか？今のママがいいなあ。」と思ってしまうことでしょう。逆に、この一年間居場所づくりに悩み、心地よい思いをしてこなかったのなら、「新しい出会いでまたうまくいかなかったらどうしよう。また同じ思いをするのは嫌だな。」と不安になってしまうかもしれません。

保護者の皆さんもきっと同じでしょう。

そこで今月号のコラムは、今までと趣を変えて、4月からスムーズにスタートするために、親として今のうちにできることは何か、を考えていきたいと思います。



○ 学校・先生を信じる

先生を信じることです。

今かかわりがある先生を、まずは信じましょう。

中学の場合は、担任の先生以外にも、学年主任の先生、部活動の顧問の先生、養護教諭の先生、さわやか相談員の先生などさまざまな先生方がいらっしゃいます。もしも、今の担任の先生とはあまり親密には話せない、と思っていたとしても、だれか突破口になってくれそうな先生は必ずいらっしゃいます。お子さんと相談してみて、「この先生となら話せそう。」という先



生をみつけましょう。

小学校の場合は、どうしても担任の先生の比重が大きくなります。今の学級がお子さんにとって居心地の良いものであったなら担任と話せるでしょうが、そうではなかった場合、ちょっと二の足を踏んでしまいますね。でも、教育相談の先生や養護教諭の先生なら敷居が低くはありませんか？また教頭先生がよく耳を傾けてくださる例も大変多いです。学期末の保護者期の折などちょっと声をかけてみてはいかがでしょうか。

○ 3つのポイントを伝える

では、先生にいったい何を伝えればよいのでしょうか？

次の3つのポイントを整理してお話ししてみましょう。



① マイナスのポイント

子供が苦手としていること、パニックになったりキレてしまったりする状況や原因は何かを具体的に伝えましょう。急な変更が苦手である。長時間同じ姿勢でいるのは難しい。大きな音に敏感である。文字がびっしり書いてあると行を飛ばしてしまう。身体の特徴を言われることを嫌がる。等々、今までの子育ての中で分かっていることをお伝えしましょう。

② マイナスからプラスに切り替わるポイント

もしも、興奮状態になったり、逆に石のように閉じこもったりした場合、どうすればクールダウンができるか、どのような支援があるとうまく乗り切れるか、そのポイントも具体的に話しましょう。別室で一人にする。背中を優しくトントンする。危険のない範囲で動き回らせる。漢字の練習回数や作文の文字数は減らす。等々、学校生活の中でできることをお願いしましょう。

③ プラスのポイント

どの子も、必ず成長してできるようになったことがあります。こうすれば我慢できるということや効果があった声かけは何だったのでしょうか。小学校の算数の時間に、間違えた答えを言った子に、「違います」と言ったら大パニックになったという例があります。実はその子は「違う」「いけない」「ダメ」という言葉がとても苦手だったので。そのことを保護者から聞いた担任は、学級のルールとして「違います」ではなく「ほかに答えがあります」と言うことを徹底し、学級の秩序が保たれました。

○ 子供のために親ができること

子供のために親がしてやれることは、ほんのわずかです。

特に、小学校高学年から中学生へと成長していく中で、いちいち親が出しゃばっていくのは、子供のためにならないこともあります。

でも、進学進級という節目は、やはり慎重に見守っていきたいものです。

「こんなことを話すと、うちの子が色眼鏡で見られてしまうのではないか？」「新しい環境や先生に慣れるまで我慢したほうがいいのではないか？」という逡巡があるでしょうが、先生や学校を信じてお願いしてみることが、親としてできることです。

ただし、学校にだけ要求するのはいけません。

あくまでも子育ての主体者は保護者なのですから。また、学校は、集団生活の場です。一人の子供だけを特別に扱う場ではありません。そのことをよく踏まえたうえで、学年末の今だからこそ子供のために親がしてやれることは何かを考えてみましょう。